

校長メッセージ ～合言葉は「子どもに軸足！」～

東長良中学校 丹羽

何になりたい？ どうありたい？

私たち大人は子どもたちに「将来何になりたい？」という質問をよくします。そう聞かれた子どもたちは、「サッカー選手」とか「Youtuber」とか「公務員」などと答えることになります。何気ないこのやり取りについてももう少し考えてみる必要があると最近感じています。

現在は先が見えない激動の時代です。その変化はどんどん加速していて、「将来」のことをしっかりと見据えることが難しい状態です。今ある職業の半分以上は、10～20年後には、テクノロジーの発展によって無くなっていると予想されるほどです。そんな時代に、1つの職業だけにフォーカスさせるのは、選択の幅を狭めてしまうのではないのでしょうか。もしかして、その職業はなくなっているかもしれないですし、今では当たり前になりつつあるリモートワークのように想像できないような働き方が当たり前前の時代になっているかもしれません。

しかし、「将来どうありたい？」という風に質問を変えると、時代や職業だけに制限されず、選択肢が広がります。「創造的な人でありたい！」とか「一生学び続け成長したい！」とか「家族や仲間を大切にしたい！」とか「仕事は適当にして、楽しんでいきたい！」という価値観や在り方を考えることができます。そんな価値観も時代によって変わっていくはずですが、でも、その時々で「こうやって生きていきたい！」という価値観さえあれば、外側で起きることや他の人の意見などに流されすぎずに、自分が納得できる決断をすることができるのではないのでしょうか。

外的なものに振り回されずに、自分が大切にしている内側にある価値観を大切にできると、どんなことがあっても幸せを感じながら生きていけます。幸せは外から与えてもらうものではなく、自分の心が感じるものだからです。これからの世の中では、被害者意識や消費者意識で外に原因や問題を求めて、それを非難したり要求したりするのではなく、どんな状況下でも自分で幸せを感じながら、自主的に自立して生きていける力が大切になります。

将来について考える時には、「何になりたい？」よりも、「どうありたい？」を大切にしていってほしいと思います。この質問を使うと、見えるものを求め続けていく終わりのないレースから抜け出せますし、自分にとって本当に大切なものがわかり、それに焦点化することができます。また、激動の時代を乗り越える地力となります。これからの時代を生きていく子どもたちには価値観や在り方を考える機会を多くもってほしいと思います。

ジョン・レノンの名言に以下のようなものがあります。

When I was 5 years old, my mother always told me that happiness was the key to life.
When I went to school, they asked me what I wanted to be when I grew up. I wrote down 'happy'.
They told me I didn't understand the assignment, and I told them "they didn't understand life".

John Lennon

大まかに訳すと、

「僕が5歳のとき、母は『人生には幸せが大切なんだ！』といつも教えてくれていたんだ。だから、学校に行き始めて、将来何になりたいと聞かれた時、僕は『幸せになりたい』って書いたんだ。大人は、僕がこの質問の意味がわかっていないと言ったけれど、僕は、彼らこそ人生の意味をわかっていないと言ったんだよ！」